

第47回藤沢市地産地消推進協議会及び 令和3年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会 議事録

- 1 日 時 2021年(令和3年)7月2日(金)午後2時～
- 2 場 所 藤沢市役所本庁舎8階 8-1, 8-2会議室
- 3 出席者
ア 第47回藤沢市地産地消推進協議会
(ア) 委員 15人
北会長、高橋副会長、湯澤委員、大矢委員、大嶋委員、
金井委員、戸田委員、山田委員、青柳委員、田中委員、
林委員、中山委員、西委員、友田委員、佐藤委員
(イ) 事務局11人
中山経済部長
(農業水産課)
及川課長、安部川課長補佐、鈴木課長補佐、
福岡上級主査、中村主査、原主任、落合主任、
重森主任、青木主任、相原主任

イ 令和3年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会
(ア) 委員 15人
北委員長、高橋副委員長
(需要拡大・供給強化部会)
大矢委員、山田委員、金井委員、佐藤委員
(学校・保育園給食供給強化部会)
湯澤委員、林委員
(地産地消普及啓発部会)
大嶋委員、戸田委員、青柳委員、田中委員、中山委員
(イ) オブザーバー 2人
西委員、友田委員
(ウ) 事務局 11人
中山経済部長
(農業水産課)
及川課長、安部川課長補佐、鈴木課長補佐、
福岡上級主査、中村主査、原主任、落合主任、重森主任
青木主任、相原主任
- 4 傍聴者 なし

【第47回藤沢市地産地消推進協議会】

1 開会

事務局
(安部川)

定刻になりましたので、ただいまから第47回地産地消推進協議会を開催いたします。

司会を務めます農業水産課の安部川と申します。よろしくお願ひいたします。

なお、本会議については新型コロナウイルス感染症対策を講じた中で開催しております。感染症対策として、机は事前に消毒を行い、入り口で検温と手指消毒をお願いしております。席の間隔は、できる限り取らせていただきました。会議中についてのお願いですが、換気のためにドアを開けさせていただいております。マスクについては、会議中も着用をお願いいたします。マイクは都度除菌をいたします。このような状況下での会議の開催ですので、ご協力をお願いいたします。

本会議について、20名の協議会委員のうち、現在15名が出席しております。藤沢市地産地消推進協議会規則第5条に規定する会議成立要件の過半数を超え、会議が成立しておりますことを報告させていただきます。

また、ご都合により欠席の方がいらっしゃいますのでご報告させていただきます。藤沢市畜産会から選出の和田委員、江の島片瀬漁業協同組合から選出の北村委員、藤沢市立小学校長会から選出の加瀬委員となっております。藤沢市漁業協同組合選出の葉山委員と藤沢商工会議所の吉田委員については、事前には出席の予定となっておりますが、到着が遅れているようです。

事務局
(安部川)

この度委員の変更が5名ありましたので、ご紹介させていただきます。

始めに、さがみ農業協同組合組織経済部販売課ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店より選出していただきました山本委員が退任され、同店の店長 大矢 享伸様が委員とされます。

続きまして、市議会の建設経済常任委員会より選出していただきました山口委員が退任され、同委員会の委員長 西 智様が委員とされます。

続きまして、同じく市議会の建設経済常任委員会より選出

していただいております味村委員が退任され、同委員会の副委員長 友田 宗也様が委員となります。

続きまして、神奈川県湘南地域県政総合センターより選出いただいております高村委員が退任され、地域農政推進課長の佐藤 剛志様が委員となります。

最後に、藤沢市立小学校長会より選出いただいております河内委員が退任され、同会より加瀬 良一様が委員となります。

本日、加瀬委員につきましては、欠席となりますが、この度、藤沢市地産地消推進協議会の委員としてご就任いただく皆様に、中山部長から委嘱状を交付させていただきたいと存じます。

それでは、順にお名前を読み上げさせていただきますので、どうぞその場でご起立をお願いいたします。

(委嘱状を交付)

(大矢 享伸様, 西 智様, 友田 宗也様, 佐藤 剛志 様)

事務局 (安部川) 続きまして、新たに委員になられました皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。

それでは、大矢委員から先ほど委嘱を行いました順でお願いいたします。

大矢委員 さがみ農協わいわい市藤沢店から来ました大矢と申します。なるべく早めに皆さんのお力になれるよう頑張りますので、よろしく申し上げます。

西委員 今年度、藤沢市議会建設経済常任委員会の委員長として地産地消推進協議会委員を拝命しました西智です。私事ですが、妻の実家が農家なので地産地消は関心のある事柄です。よろしく申し上げます。

友田委員 建設経済常任委員会の副委員長の友田宗也です。以前から何度か協議会には出席をしていました。引き続き藤沢市の地産地消の議論に参加できることを嬉しく思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

佐藤委員 4月から湘南県政総合センターの地域農政推進課長となりました。前任の高村から引き継いだ佐藤と申します。私は

藤沢市民で、藤沢の地産地消を日頃から目にしている。こうした立場で参加できて嬉しく思っている。よろしく願いいたします。

事務局 (安部川) 4月の人事異動で、事務局にも変更がありましたので紹介します。

事務局 (及川) 4月1日付で農業水産課長を拝命した及川です。今年度は計画改定の年で、本協議会でみなさんにも協議していただくようになります。ますます藤沢市の地産地消の推進が図れるようご協力いただきたい。よろしく願いいたします。

<以下、鈴木補佐、青木、相原自己紹介。>

事務局 (安部川) 開会にあたり、北会長からご挨拶をお願いいたします。

北会長 当協議会の会長を仰せつかっております、地元、日大生物資源学部の北です。よろしく願いいたします。

本年の2月の第46回の協議会は、うちの研究生の学生が、感染経路はわからないがコロナにり患したために研究室が閉鎖になり、私も協議会には出られませんでした。申し訳ありませんでした。

その後も新型コロナがなかなか落ち着かない中、人を集めてPRしていくというのがこういう地産地消の活動の中心になりますが、事務局はじめ委員の皆様がいろいろな面で活躍されていることもあり、のぼり旗やマスクなどを使って地産地消をPRしており、手法を変えながら地産地消の取り組みを進めているのがすごいと思っていました。この場を借りてお礼を申し上げます。

コロナの影響を受けて、農林水産物の業務需要が激減して、市場価格が低迷している。こういう時こそ消費者と生産者をつなぐ地産地消が非常に重要な役割を果たす。藤沢市で地産地消そのものを市民の皆さんの新たな日常に組み込む、ある意味いいチャンスだと考えます。この協議会がそうしたものを推進できると思います。

今年度は地産地消推進計画の第4期の最終年度。藤沢市がセーリング会場となる東京2020大会の後の、ポストコロナ社会を見据えた需要推進を考える必要があると思います。今後とも、委員の皆さん、関係機関の皆さんと一緒に、市民が地産地消を実感できる取り組みがしたい。ご協力のほどよろしく申し上げます。

事務局
(安部川)

議題の3番、議事録の確認に移らせていただきます。

第46回藤沢市地産地消推進協議会及び令和2年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会の議事録をすでに送付しておりますが、修正箇所等はございますか。

退任された委員のうち、前回の会議に出席された方にも議事録を送付いたしました。修正等のご意見はいただいておりますことを報告いたします。

修正等については、よろしいでしょうか。

(意見なし)

特に修正等はないようですので、第46回藤沢市地産地消推進協議会及び令和2年度藤沢市地産地消推進実行委員会の議事録を確定させていただきます。

なお、議事録については市民相談情報課に提出をし、市民の閲覧の対象となりますので、ご承知おきください。

<資料確認>

事務局
(安部川)

議題に入る前に、配布資料の確認をいたします。

事前に送付させていただいている協議会の資料です。

①次第（裏面は名簿）

②資料1 「第4期藤沢市地産地消推進計画」進捗状況について

③資料2 藤沢産利用推進店認定状況及び認定要綱の一部改正について

④資料3 令和2年度地産地消に関するアンケート結果について

- ⑤資料4 藤沢市地産地消推進計画改定スケジュールについて
- ⑥資料5 「おいしい藤沢産」ホームページのリニューアルについて

次に、実行委員会の資料です。

- ⑦次第（裏面は名簿）
- ⑧資料1 令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業報告書
- ⑨資料2-1 令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書
- ⑩資料2-2 令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書内訳
- ⑪監査報告書（裏面が通帳写）
- ⑫資料3 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画書（案）
- ⑬資料4-1 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書（案）
- ⑭資料4-2 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画書（案）内訳

机上に閲覧用として第4期藤沢市地産地消推進計画を置いております。必要に応じてご参照ください。

本日の会議については、すべて議題を公開しておりましたが、傍聴希望者はありませんでした。ご報告をさせていただきます。

ここからの進行につきましては、北会長、よろしくお願いたします。

北会長 本日の会議は議事録を作成する都合上、発言内容を録音しております。あらかじめご承知おきください。

発言する際は、職員がマイクをお持ちいたします。名前を名乗ってマイクを使用してのご発言をお願いいたします。

それでは議題（1）「第4期藤沢市地産地消推進計画の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

<議題1> 「第4期藤沢市地産地消推進計画の進捗状況について」

事務局
(福岡)

第4期藤沢市地産地消推進計画の進捗状況についてご説明します。

(資料1に沿って説明)

第4期地産地消推進計画は令和元年度から令和3年度の3年間の計画になっています。

第4期計画の施策については大きく2つに分けられ、1つは重点的に取り組む施策、2つ目は長期的に取り組む施策でございます。

今回は令和2年度の取り組みを報告いたします。

資料には取り組み項目、取り組み内容、令和元年度取り組み実績、令和2年度取り組み実績が記載されておりまして、資料の左をご覧くださいと、1～34番まで数字が振られています。これはお手元にあります地産地消計画のP42～P54までの各施策の具体的な取り組みを記載しているので、お手元資料をご参照下さい。

項目が多いので、目標が設定されているところを中心に説明します。

(1) 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化

項目1「東京2020オリンピック・パラリンピック大会での藤沢産農水産物等の供給及び活用」

こちらの目標設定は、国際水準GAP等を年間1事業者ずつ増加させて、令和3年度までに5事業者にするものとしています。

令和2年度までの目標値の4事業者に対して、実績は2事業者となっています。東京2020大会における取組としては、コロナ禍の中の取り組みということで、動画やオンラインイベントを主とした取り組みが実施されました。また、江の島に通じる弁天橋の花壇に藤沢産の花弁の植栽を実施しました。

項目2 「藤沢産利用推進店の充実」

目標値の設定は、年間10%ずつ利用推進店の認定店舗数を増加させ、令和3年度までにひとキュンが143店舗、ふたキュンが34店舗、計177店舗にするというものです。令和2年度の目標値はひとキュンが91店舗、ふたキュンが37店舗、合計128店舗でした。

資料に修正があります。実績にひとキュン66店舗とあるところが、ひとキュン90店舗に修正です。

実績値のふたキュンは27→36店舗に修正です。

参考のところにある廃止店舗数は、33→25店舗に修正です。

今後も利用推進店を増やしていくには、認定された際の店舗側のメリットを増やす必要があると考えております。

項目5 「藤沢産農水産物等の表示」

こちらは年間10%ずつ増加させ、令和3年度までに555,000枚にすることが目標です。令和2年度の目標値は503,916枚ですが、実績は小シールの配布数が1,014,400枚、大きいシールが39,660枚でした。小シールは作成195,000枚に対して、配布が1,014,400枚となっておりますが、昨年度作成したものの残りを使用したものです。わいわい市藤沢店での活用や、個々の生産者からの申請も多くなっています。

項目6 「藤沢産の農水産物等学校保育園給食供給強化」

学校・保育園で使用されている農水産物の供給強化です。こちらの目標値は、学校・保育園周辺で生産されている農水産物を給食に使用するモデル校数、モデル園数となっており、令和3年度までに小学校は1校増加させ、保育園は新たに1園選定することとしています。

令和2年度実績は、小学校は既存のモデル校3校の課題の整理を実施し、安定・充実したシステムを構築するため、学期ごとに生産者含め関係者を集めた検討会を実施しました。

また、新たに中里小学校をモデル校に選定し、令和2年度から取り組みを実施しています。

保育園はモデル園を選定するため、またの保育園にて試行的に藤沢産新米の「はるみ」の提供を行いました。

項目7「藤沢産農水産物等の利用促進」

目標値は、藤沢産の農水産物を活用した給食、「ふじさわランチ」の回数を、小学校では年1回ずつ増加、保育園では年2回増加し、令和3年度までに小学校は9回、保育園で6回実施するものとなっています。

令和2年度の目標値は小学校8回、保育園4回でしたが、これに対して新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、実績値は小学校3回、保育園は0回です。

なお、保育園給食において藤沢産農水産物を12品目ほど使っておりましたが、「ふじさわランチ」として藤沢産農水産物のPRがなかったため、今後は保育課の栄養士と実施方法の検討を行います。

次に、重点的に取り組む施策の
地産地消の普及啓発・健康施策との連携強化になります。

項目10「農・畜・水を一体とした藤沢産農水産物等のイベントの開催」

目標値の設定はイベントの来場者数を年間1,000人ずつ増やして令和3年度には8,000人にするというものです。元年度、2年度ともに新型コロナの影響で実施しなかったため、実績はありません。

項目12～14はイベント・講座について記載しているが、コロナの影響で中止したものが多くありました。

項目15以降は長期的に取り組む施策で、時間の都合上説明は割愛します。

北会長

項目2番のひとキュン、ふたキュンについて。推進店認定メリットの話をしていましたが、具体的な認定メリットを高める、認知してもらうためのアイデアはどんなものをお持ちか。

事務局
(安部川)

利用推進店認定店舗になってもらった場合のメリット、インセンティブは以前からの課題となっており、現在のインセンティブは利用推進店になってもらった際に、いろんな媒体での周知をしています。

毎年、利用推進店の更新申請をしてもらう際にアンケート調査をしていて、その要望を受けながら、利用推進店になった際の新たなメリット・インセンティブを検討していきたいと思っています。

令和2年度のアンケート調査の中でも、「周知をもっといろんな形で実施してほしい」という声があり、これまでもいろんな媒体で周知をしていましたが、新たな媒体でも取り上げてもらえるような取り組みをしていきたいと思っています。

その他、今年度2月には利用推進店からの要望があり、コロナ禍で飲食店が大きな影響を受けたということで、市役所本庁舎でお弁当販売を3月～4月30日まで実施したという経過もあります。そうした藤沢産利用推進店からの要望をしっかり受け止めて取り組みを進めていくことが、利用推進店に認定されるメリットになるのではないかと考えております。メリット、インセンティブについては引き続き検討を続けてまいります。

北会長

ありがとうございました。皆様よろしいでしょうか。特にご質問等ないようですので、議題の2 藤沢産利用推進店認定状況及び認定要綱の一部改正について事務局から説明をお願いします。

事務局
(安部川)

「議題2 藤沢産利用推進店認定状況及び認定要綱の一部改正について」ご説明いたします。お手元の資料2をご覧ください。

1 ページ目をご覧ください。

「1 藤沢産利用推進店の認定について」でございますが、藤沢産利用推進店の新規、更新、区分変更の申請がありましたので、藤沢産利用推進店認定要綱に基づき、次の

日程で認定審査会を開催いたしました。

2の審査会の日程でございますが、4月23日に開催した第1回審査会において、

- ・ひとキュン新規1店舗
- ・ひとキュン更新45店舗
- ・ふたキュン更新20店舗
- ・ひとキュンからふたキュンへの区分変更3店舗について審査を行い、すべての店舗が認定基準を満たしておりますので認定となりました。

更新店舗以外のひとキュン新規1店舗、ひとキュンからふたキュンへの区分変更3店舗の詳細につきましては、表をご参照いただければと思います。

次に、2ページをご覧ください。

こちらの表は、第1回審査会後の4月23日現在の登録店舗数となります。

表の一番右の欄をご覧くださいませでしょうか。

4月23日現在の登録店舗数は、ひとキュン64店舗、ふたキュン30店舗の94店舗となります。

次に、3ページに移りまして、年度末登録数と新規登録数をグラフにしたものと、登録ランク数の割合をグラフにしたものになります。

次に、4ページをご覧ください。

こちらは、令和2年度、3年度の廃止店舗の廃止理由の内訳となっております。

令和2年度につきましては、閉店が5店舗、認定取消・店舗休業が20店舗となります。

令和3年度につきましては、認定取消・店舗休業が8店舗となります。

(3)ウ 令和2年度の認定取り消し・休業についての表の上から3つ目、9つ目に店舗数を記載しておりますが、これは更新通知を発送して返信がなかった店舗で、廃止理由の詳細が把握できなかった店舗となります。

協議会でも、廃止理由をしっかりと確認して分析したほうが良いとのご指摘をいただいておりますので、ご指摘以降のものは詳細な理由を確認しております。

主な理由は、「コロナで集客が減り、藤沢産食材を使用しなくなった」「片瀬漁港の水揚げがなくなった」「コロナで営業のめどが立たない」「コロナで集客に積極的になれない」などでした。

5ページから8ページまでが94店舗の登録店舗一覧となっています。

次に9ページをご覧ください。

藤沢産利用推進店認定要綱の一部改正についてご説明いたします。

(1)につきましては、2021年4月1日付の改正点になります。

- ・手続きの簡素化を図るため、申請書類等の押印を廃止いたしました。
- ・「藤沢産農水産物」の表記について、「藤沢産食材」とし、第2条において藤沢産食材の「定義」を明確にいたしました。
- ・別表1の認定基準において、「藤沢産農水産物等を常時〇品目以上販売していること」を「藤沢産食材を常時〇品目以上販売又は使用していること」に修正いたしました。
- ・市の組織改正に伴い、審査員の課名を修正いたしました。

つづきまして、(2)になりますが、こちらは本日付の要綱の改正(案)についてご説明をいたします。

こちらにつきましては、令和2年2月に開催をした本協議会の中で、委員から海の家を認定してはどうかとのご意見をいただきましたが、当時は、年間通じて藤沢産農水産物を使用いただいている店舗を藤沢産利用推進店として認定しておりましたので、海を家の認定につきましては今後の検討課題とさせていただいております。

この度、海水浴場組合から「海の家」を藤沢産利用推進店として認定してもらいたいとの要望を受けました。海の家には、市内・市外から多くの方が来られますので、海の家を藤沢産利用推進店として認定することにより、藤沢産農水産物及び藤沢産利用推進店のPRを行うことができますので、今回、要綱改正を行い、海の家を藤沢産利用推進店として認定していくものでございます。

認定要件といたしましては、

- ①市内の海水浴場組合の組合員であること。
- ②営業期間のすべての日において、藤沢産農水産物を使用すること。
※すべての日としておりますが、天候等により藤沢産農水産物が入手できないなどのやむを得ない理由がある場合は柔軟に対応をしてみたいと考えております。
- ③認定ランクの基準につきましては、現行の要綱の基準に準拠することといたします。
- ④認定の有効期間につきましては、海の家営業期間終了をもって認定を廃止とします。

9 ページ以降は、要綱の新旧対照表となりますので、ご参照下さい。

議題2の説明は以上となります。よろしくお願いたします。

北会長 ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたので、ご質問等ありましたら挙手をお願いいたします。
中山委員 お願いいたします。

中山委員 9 Pの認定要綱の改正について。藤沢は夏の観光客が多いということで、そういうことを受けて海の家を認定すること。私が希望したことだと思うので、ありがとうございます。せっかくの海の家を認定することなので、いろいろ工夫してもいいと思う。去年は海の家を開設しなかったのもあり、観光客は40%落ち込んだ。今年は海の家を開設する。期待している。海を家の認定をするのはいいが、認定申請してもらうために、インセンティブを、海の家用にできないか。プラスのものを、この短期間でできそうなことは何かないか。案があるか、これから考えるのか。

事務局 (安部川) 海水浴場組合からの要望をもらったのがつい先日で、もともと協議会でも意見が出ておりましたので、要綱を改正するところまではできたのですが、その先の周知やインセンティブの付与などは海水浴場組合の方とよく話し合った

中で検討していきたいと考えています。

北会長 まずはフレームを作った、具体はこれからということですね。

中山委員 できればいいが、予算を柔軟に使えると思うので、のぼり旗の配布を。のぼり旗は風景に映える。ひとキュン店舗には1本、ふたキュン店舗には10本のぼり旗を貸しますよ、とするとか。海の家が興味を示すことをしてほしい。ふじキュン♡が週に1度お店を訪ねるとか。

事務局
(安部川) のぼり旗は配布する予定です。配布数については、しっかりPRできるよう、海水浴場組合の方と協議してまいりたいと考えております。

北会長 どうもありがとうございました。他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、議題の3地産地消に関するアンケート結果について事務局からご説明お願いいたします。

事務局
(原) それでは令和2年度地産地消に関するアンケート結果についてご説明いたします。資料3の冊子をご覧ください。1ページめくっていただき、ページの下にページ番号がふられておりますが、1ページの1調査概要についてご説明いたします。

本アンケートの目的は、地産地消および藤沢産農水産物に対する意識や関心、消費者の購買動向などについて調査し、今後の施策や事業の検討の参考とするものとしており、内容については前年度の本協議会の中でも意見交換をさせていただいたものになります。

郵送でのアンケート調査を行い、調査設計といたしましては下記のとおりです。

回収状況といたしましては、対象者3,000人中、1,587件回収となっており、回収率は52,9%でした。また、本アンケートはwebでの回答も受け付けており、全体の約20%がwebでの回答でした。

対象者の内訳、調査結果をみるうえでの注意事項について

ては記載のとおりです。

それでは集計結果の説明のほうに移りたいと思います。全ての説明を行いますと大変時間がかかってしまいますので、ポイントを説明させていただきます。

2 ページをご覧ください。性別、年代、居住地区、世帯構成の結果となっております。年代と居住地域のグラフをご覧くださいと、様々な年代・地域の方からご回答いただけただということがわかります。

3 ページをご覧ください。(5) 地産地消の認知度ということで、「地産地消」を知っていると回答した方が85%を超える結果となりました。年代別に[10～20代、30～50代、60代～でみてみますと、年代で有意な差はなく、「地産地消」という言葉の認知度について、年代は関係ないということが調査でわかりました]。(6) 藤沢市の地産地消に関する条例・計画の認知度については、どちらも知らないという方が75%を超える回答でした。以上のことから地産地消という言葉は知っているが、市の条例や計画についてはまだ知らない人のほうが多いという結果になりました。(7) 地産地消について何からお知りになりましたかという設問に対し、一番多かったのはテレビやラジオといったメディアの媒体、次いで新聞や雑誌、店や売場の掲示物、行政の発行物となっております。学校で知ったという方も15.5%いるということで、給食を通してなのか授業をとおしてなのか分からないですけれども、教育の場にも地産地消は広まっていて、若い世代の方も知るきっかけとなっているかと思われれます。その他の回答も記載しておりますが、各設問こちらは時間の都合上、説明を割愛させていただきます。

4 ページをご覧ください。(9) 普段から地産地消に関心がありますかという設問に対し、こちらは(5)で地産地消という言葉を知っている方への設問なのですが、75.6%の方から関心があるとの回答をいただきました。こちらも年代別にみると30～50代、60代以上の方は8割近くが関心ありという回答に対し、10～20代の方は5割程度しかありませんでした。言葉の認知に年代の差はありませんでしたが、関心があるかについては年代によって

有意な差があることがわかりました。若い方々が日常的に買い物する機会が少ないなどという理由はあると思いますが、若い世代が関心・興味をもてるような取り組みが必要なのかと考えられます

5 ページをご覧ください。地産地消に関心があると回答した中で、(10) どのようなところに関心があるかという設問に対し、一番多かったのは新鮮でおいしい農水産物が手に入るで、次いで地域の活性化につながるということでした。地域貢献という観点から地産地消に関心がある方も多くいるということがわかりました。

6 ページをご覧ください。(11) 普段、農水産物はどこで入手することが多いですかの設問に対し、食品中心のスーパー、大型スーパーという回答が多い結果となりました。(12) がその理由になるのですが、家や職場から近いなど利用しやすいからという回答が一番多く、品ぞろえが豊富、食料品以外の買い物も一緒にできるという理由が多いので、利便性というところでスーパーなどを選ぶ方が多いものと考えられます。

7 ページは農水産物を購入する頻度の回答になります。

8 ページをご覧ください。(14) 購入する農産物について、どのようなことを注意して選んでいますかという設問に対し、鮮度・価格という回答が多かったです。(15) 購入する農水産物の産地に関して、どの程度気にしていますかという設問で、②藤沢産のものであることをどの程度気にしているかという設問に対して、「かなり気にしている」「ある程度気にしている」と回答した方が47%となっております。年代別にみると、年齢が上がるにつれて藤沢産を意識している方が多いという結果が出ました。10～20代の方はかなり気にしている、ある程度気にしているという方が合わせて20%、30～50代の方は40%、60代～となると約60%と、年齢層があがるにつれて藤沢産のものであることを意識している人が多いということが調査の結果わかりました。

9 ページをご覧ください。(16) 藤沢産の農水産物といえば、何を連想しますかという設問に対し、ご覧のような回答が得られました。しらす、トマト、ブドウ、なし、野菜と続きます。野菜という回答とは別にトマトと回答している

方が多いので、野菜の中でもトマトが印象にあるものと考えられます。またグラフではそのほかが切れてしまっています。申し訳ございません。その他として400件ほど様々な意見をいただきました。

10ページをご覧ください。(17) 市内で生産されている農水産物の旬の時期については全く知らない、あまり知らない方が6割を超える結果となりました。(18)は購入したことがある藤沢産の農水産物ということで、野菜が一番多いという結果となりました。

11ページをご覧ください。(19) 今後、購入したい藤沢産の農水産物は何ですかという設問に対し、回答の傾向としてはさきほどの購入したことがある農水産物と同じ結果となりました。(20)はこちらのロゴシールを見たことがあるかという設問で、市内生産者のご協力もあり、3~4割程度の方が目にしたことがあるとの回答でした。

12ページをご覧ください。藤沢産の農水産物を購入して「地産地消」を応援しようと思いませんかという設問に対し、1割の方がすでに応援していると回答しており、応援したいと思うという方が8割近くで、合わせて9割近くの方が応援しているまたはしたいと思っているという結果が出ました。(22) 藤沢産の農水産物を購入して「地産地消」を応援しようと思わない理由はどのようなことですかという設問に対し、こちらは(21)で応援しようと思わない、全く思わない方への設問になりますが、思わない理由で一番多かったのが、価格や品質が同じなら藤沢産にこだわらないからという方が一番多かったです。例えばこういった方に地元の畑で朝採れた新鮮な野菜ってこんなおいしいんだ、市内で高い技術で高品質な花きが生産されているんだ、藤沢産のクオリティっていうものをもっと知っていただければ、応援していただけるきっかけになるのではと思います。また次いでどのようなものがあるかわからない、どこで購入できるかわからないという回答も多かったので、引き続き情報発信の部分についてもより力を入れていく必要があると考えられます。

13ページをご覧ください。(23) 「地産地消」のメリットとして、あなたの印象や感じるものを選んでくださいという設問に対し、こちらは(10) 「地産地消」のどのよ

うなところに関心がありますかという設問と同じような傾向の回答でした。新鮮・安心安全・旬なものが手に入る、地域の活性化、地域の農水産業の振興につながるものがメリットとされている方が多いという結果となりました。

14ページをご覧ください。(24)どのような情報があれば、あなたは「地産地消」取り組みやすくなると思いますかという設問に対し、最も多かったのが直売所などの藤沢産のものが購入できる場所の情報でした。旬や食べ頃の情報だったり、生産者や生産地域に関する情報という回答も多かったです。

16ページご覧ください。(25)「地産地消」をより進めるために効果的だと思う取り組みについての設問ですが、こちらはスーパーなどの量販店で藤沢産の農水産物を販売するのほうがいいという意見が最も多かったです。(11)のどこで農水産物入手することが多いかという設問でもスーパーという回答が多かったことから、普段買い物しているところで目に入ったら、手に取れたらいいよねという考えの方が多くのではと考えられます。次いで直売所を増やすという意見も多かったので、買える(場所)機会を増やすということが効果的だと思われる方が多いと考えられます。以下その他の回答が続き、19ページからは自由記入の意見となっております。説明は以上になります。

このアンケートについては、今後とも1年に1度実施していき、購買動向・地産地消に関する意見などの継続的に調査を行い、意識変化などを確認していきたいと思っております。

以上となります。

北会長 ありがとうございます。非常に興味深いアンケート結果だと思います。これにつきましてご意見・ご質問等ありますでしょうか。

田中委員 お願いいたします。

田中委員 アンケートの集計お疲れさまでした。これだけのアンケート、大変だったと思う。努力されたんだなと思いました。

このアンケートは興味深い、他の自治体もこれがあると喜ぶと思うし、企業も喜ぶと思う。

定量的なことよりも定性的なところ。後半の意見で感じたが、SDGsがちょうど広がっているので、野菜の包装方法だとか、無農薬と有機の農法の違いは何なのか、藤沢の独自の取組はないのかだとか、どちらかというところと教育的なものがあったので、次回アンケートとるのであれば、SDGsに関する項目、「野菜の包装についてどう思いますか？」みたいなのがあってもいいと思う。

ほかにもSDGs関係で、野菜などの農作物の形などが悪いものの販売をしていくことの是非について聞くのもいいんじゃないかなと思った。

また、これから地産地消をどう盛り上げていくか。ロジスティックな面もあるが。134号線を走っているときに茅ヶ崎市の柳島に道の駅ができかけているのを見た。江の島に道の駅があってもいいんじゃないかなと思った。江の島なら関東でも屈指の道の駅になると思う。商業の担当も検討する方がいいと思うが、そろそろ構想が出てもいいんじゃないでしょうか。

その他にも、地産地消に対する知識を高めることが大事だと思った。相模湾でとれる魚の種類、取れる季節などを幅広く周知する方法だとか、相模原市の独自かもしれないが、小学4年生の子が「地産地消ラーメンを作ってほしい」と提案したので、地元中華料理屋や八百屋などいくつか店舗が連携して作った。同じように「作り大豆」という取組があり、甘味処ときなこを一緒に使っていて、これはSFCの中でも何かしていたと思う。教育というより、ビジネスとからめた地産地消を伸ばしていくという発想でやっていくほうが今は身につくのかな、と思った。

3つの観点からぜひアンケートをやってほしい。アンケートは貴重な資料。尽力いただきたい。

北会長

ありがとうございます。おもしろいアンケートになりそう。①SDGsと関連したアンケートに、②江の島に道の駅、③教育とコラボしての地産地消の教育の推進、このあたりについて事務局いかがでしょうか。

事務局 (及川) SDGsの観点、藤沢市としてもますます取り入れていく必要があると思っている。ご意見参考にしたい。

道の駅は2市1町で構成する協議会の中でも話題が出ていて、茅ヶ崎市の道の駅は開設が遅れている。開設後も茅ヶ崎市産の農産物・海産物だけでは棚が埋まらないことが想定されるので、協力依頼があると思う。連携したい。

地産地消に関する知識を高めるということで、過去にトマトを使った料理コンテストや子どもからアイデアをもらうようなイベントもやった。なかなか大変な作業になるので教育委員会とも調整をしながらやっていきたい。相模湾の魚も県の発行している本もあるので、そういうものを配布しながら、藤沢市にどんな魚がいるのかなどを子どもたちにも知ってほしいと思う。

北会長 佐藤委員は柳島の道の駅の現状とか情報おもちでしょうか。

佐藤委員 道の駅の開設が遅れているというのは知っていた。農産物は茅ヶ崎市産だけで埋めるのが難しいというのも聞いている。そうするとそこで藤沢市とも連携するのかな、という風に思っている。道の駅は国交省管轄なので、直接的な関与はなかなかないが、そういう情報があれば共有したい。

北会長 足柄の道の駅は国交省主体で、農水産省が「どうやって関わればいいのか」と色々やりとりがあったと記憶している。

北会長 中山委員どうぞ

中山委員 柳島は2019年開設の予定だったが2022年に遅れて、2025年開設になった。そこにはあまり期待しないほうがいい。この1年半で関東近辺の直売所、道の駅を50箇所くらい回ったが、成功しているところとそうでないところの差が顕著。3割くらいは破綻しかかっている。どこも売りは「生産者の顔が見える」ことになっているが、何が成功の要因なのか分析していく必要があると思う。

北会長 貴重なご意見ありがとうございました。
他にございますでしょうか。

林委員どうぞ。

林委員 アンケートの結果で、「応援したい」という回答が78.5%もあるのは嬉しい。年齢層が高い方がより認知しているので、そこはますます強化していくべきだと思う。一方、若い方へのアプローチを今後どうしたらいいかを具体的に考える必要があると感じている。応援したい、という気持ちがある様子なので、「みんなで応援しよう」と呼びかけるなど。影響力のあるタレントに周知してもらったり、Instagramを開設してハッシュタグをつけて投稿してもらったりだとか。買った野菜、野菜を使った料理など。それを市側もどんどん拡散して、人に見てもらえるようになると投稿も盛り上がると思う。取組にお金もかからないところもいい。シティプロモーション課がやっているの、同じスキームで。

北会長 ありがとうございます。林委員の指摘している観光課との連携はいかがでしょうか。

事務局 (安部川) 今は広報シティプロモーション課にシティプロモーション部門が移ったという経緯がある。そちらの課と連携をしていく。若い人へのアプローチ、講座に親子で参加していただいて農産物に触れる、知ってもらう機会になっていると思う。そうしたことは引き続き継続しつつ、他にも学校給食との連携を深めて周知をし、知っていただく機会を増やしたい。

北会長 ありがとうございます。丸中青果の山田さんいらっしゃっているの、量販店に地産地消コーナーがあるとお客さんが増えると聞いているが、どんな状況でしょうか。

山田委員 地産地消コーナーを設けたいと望む量販店は多い。商品も売れるし、お客さんの評価も高い。課題としては一年を通じてのコーナーを確保することができない、商品の数量が年間ではらつきがあるということなど。個々の量販店の考え方はあるが、継続的に置いてもらえるような販売の方法を模索している。お客さんは好意的で、それがきっかけで集

客になっているのは間違いないです。

北会長 大矢委員いかがでしょうか。

大矢委員 わいわい市でも、直売所で品物が偏ってしまう、天候に左右されて収穫できる商品の数が減ってしまうといった課題が改善されると、より消費者の購買意欲にもっと訴えられるのかな、と思う。


北会長 ありがとうございます。安定供給というところに課題があるのかもしれない、その調整が大変なのかもしれない。

北会長 他にご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。よろしければ議題のその他に進みたいと思います。委員さんからもしくは事務局から何かございますでしょうか。

事務局 (福岡) その他のお手元の資料4をご覧ください。冒頭にもありましたが第4期計画終了の年であり、第5期計画の改定の年。改定に向けて5回の会議がある。第2回は8月下旬。そこで第5期計画の素案をお示ししたいです。素案にご意見あれば7月16日(金)までにメール等で提出してください。

。今年委員改選の年となります。9月25日号の広報に市民委員募集を掲載し、委嘱は11月24日からとなります。

議会への報告スケジュール、パブリックコメントのスケジュールを資料に掲載しております。確認をお願いします。

資料5も併せて説明いたします。8月上旬においしい藤沢産のHPをリニューアル予定です。前回の協議会の中で、「おいしい藤沢産」の名前は食べ物だけが想起されるという意見があったのでリニューアルに際して検討をしましたが、SNSやメールマガジンなどにも影響するので、タイトルの変更ではなくサブタイトル～見て楽しい！食べて楽しい！キュンとする藤沢産で対応することとしました。

お手元の資料の1Pはホームページのイメージとなります。2Pは農産物紹介のページ。3Pは藤沢産利用推進店の紹介、

4Pはレシピの紹介で現段階のホームページのイメージとなります。事務局からは以上となります。

北会長 ありがとうございました。7月16日までの意見はどんな形で提出すればいい？

事務局
(福岡)

メールでも、FAXでもどんな形でも結構です。

北会長 他に何かございますでしょうか

林委員 HPのリニューアルについて。全体図を見ないと分からないなと思いつつですが、P3の店舗の情報を載せるところ。右上の部分の、店舗や料理写真またはロゴマークのように、写真が1枚入るのか、それとも複数枚入ってスライドして展開していくのか、どんな形になるのか。

事務局
(安部川)

今事業者と調整しているところで、写真を入れる予定だが、スライドで複数枚見せられるのか、1枚だけの店舗の写真になるのかは、これから詰めていきます。なるべく多くの写真を載せて周知を図りたいとは思っています。

林委員 下のメニューはエクセルから引用すると書いてある。メニューに写真がないとイメージができず、そそられないHPになりそう。できればメニューのところにも料理の写真を入れてほしいが、それが無理なら右上に何枚かスライド式で展開できるようにしてほしい。

HPのリンクを任意で掲載とあるが、HPがなくフェイスブックで対応しているところ、インスタグラムに力を入れているところも多いので、HPだけではなくそちらのアカウントも掲載できるようにしてほしい。

P4のレシピ。一つの意見として聞いてほしいが、例に載っているスペアリブ煮込み。これはそのまま採用されるのか？

事務局
(安部川)

現時点のイメージではあるが、既存のレシピから持ってきているので、そのまま載せると思います。

林委員 スペアリブは圧力なべを使うレシピだが、圧力鍋の所持率が統計上多くて3割くらい。3割の人に向けたレシピよりはもっと万人向けのレシピがいいと思う。データによっては15%しか圧力なべを持っていない。「おいしそうなのに圧力鍋がないから作れない」となるといけない。補足で圧力鍋がないときにはどうしたらいいかを書いておくと親切かと思います。

 レシピの材料の部分。左側に1～14の番号がふってあるが、レシピは数字をふるとわかりにくくなってしまうので、やめたほうがいいと思う。番号をふっているレシピはない。よろしくをお願いします。

北会長 こういうきめ細かい対応の意見を個別に委員から直接聴取してHPに反映はできますか。

事務局
(安部川) 今ご意見いただいた部分については、対応していきたい。また、8月上旬のHP開設に向けて、機会をみつけて細かな部分について意見を聞いて業者と調整していきたいです。開設後も更新できるので、聞いていきたい。インスタについても、HPのみならず積極的に掲載できるようにしていきたい。

北会長 ありがとうございます。そのような事なので林委員よろしくお願いいいたします。
他にはいかがでしょうか。なければ、これをもちまして、すべての議題が終了しました。
事務局に進行をお返しいたします。

事務局
(安部川) これをもちまして、藤沢市地産地消推進協議会を閉会とさせていただきます。
引き続き、藤沢市地産地消推進事業実行委員会を開催させていただきます。

事務局
(福岡) **【令和3年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会】**

1. 開会（安部川）

次第の裏面をご覧ください。現在実行委員会については3つの部会に分かれて、実施する取り組みについて話し合いをしていただいているところですが、この度新たに委員になられた方については、前任者の方が入っていた部会に入ってくださいこととなります。西議員、友田議員はオブザーバーとして参加していただくこととなりますので、よろしく願いいたします。ここからの進行は北委員長お願いいたします。

北会長 それでは<議題（1）>「令和2年度事業報告及び収支決算報告について」事務局から説明お願いいたします。

事務局
(福岡)

資料6「令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業報告書」をご覧ください。

1の事業概要として、平成31年4月から第4期藤沢市地産地消推進計画が新たにスタートしまして、今年度が2年目となります。今まで継続してきた藤沢産農水産物の旬のおいしさ、魅力を市民に伝え、市内流通の促進、藤沢産農水産物の知識・理解を深め地産地消の推進を図ることとし、事業については、重点的に取り組む施策である3つを中心に実施いたしました。

2の事業報告になりますが、実施した事業として、「アふじさわ元気バザール地産地消イベント事業」になります。この事業は、ふじさわ元気バザール実行委員会が、毎月第2土曜日に藤沢駅北口で「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」を開催し、市内の新規就農者や農業後継者が農産物の販売を行い、藤沢産農水産物等のPRを行ったものですが、新型コロナウイルスの影響で4月から8月までと1月から3月までは中止としました。また、9月、10

月は荒天のため中止としました。開催は11月と12月になりました。

2ページ目にいきまして、11月は、エコバッグを持参し野菜市で購入をしていただいた方、先着200名を対象に、新米「はるみ」をプレゼントし、はるみの紹介チラシ等を配布しました。12月はビオラをプレゼントしました。

このはるみという品種は、神奈川県奨励品種で、3年前には、日本穀物検定協会が実施した米の食味ランキングで、最高評価の「特A」の評価を獲得した品種となります。市内でも、生産される方が増えており、新米の時期には学校給食でも提供がされております。このお米は、本日まで出席されている湯澤委員にご協力をいただきました。

3ページをご覧ください。

イ 試食宣伝販売における藤沢産農産物のPRになります。藤沢産農水産物の需要拡大及び旬の農水産物のPRのため、量販店において試食宣伝販売（マネキン販売）を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。

コロナ禍において実施できる方法を検討した結果、農産物にQRコードを貼付し、それを読み取った消費者に対して農産物の特徴や生産者などの情報を発信することで、藤沢産農水産物のPRを行いました。

左の写真が販売の様子で、右の写真がQRコードになります。

ウ 藤沢産利用推進店PR用「食べ歩きマップ」の作成です。

「食べ歩きマップ（日本語版・英語版）」を作成し、片瀬江ノ島駅及び藤沢駅周辺のホテル、藤沢駅にあるコンシェルジュや藤沢産利用推進店に配架し、藤沢産利用推進店の

PRを行いました。

こちらは、みなと春まつりが中止となったため、その予算の一部を流用し、藤沢駅周辺の食べ歩きマップを増刷しました。

4ページ目です。

エ 児童・園児と生産者との交流になります。

(ア) 稲作動画の作成です。

生産者2名の協力を得て、稲作の耕作の状況や生産者を紹介する動画を作成し、新米が学校給食で提供される時期にあわせてYouTubeにアップして、動画を配信し、地域の農業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図りました。

(イ) ふりふりバター体験事業になります。

市内の乳牛農家を講師に招いて実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により動画出演に切り替え、乳牛農家及び農業水産課から市内の畜産業について話をした後、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験授業を行いました。写真は当日の授業の様子です。オ給食関係職員と生産者等との連携事業になります。

給食関係職員に地産地消への理解を深めてもらうため、給食関係職員が集まる場に、生産者を招き、生産している農産物の話や意見交換を行う機会を作る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により意見交換会を実施することができなかったため、稲作動画を作成する際に学校の栄養士に協力をしてもらい、給食関係職員と生産者の交流の場を作るとともに動画作成を行いました。先ほどのア稲作動画の作成に協力していただきました。

カ 地産地消エコバッグ作成です。

地産地消エコバッグを作成し、ふじさわ元気バザール等のイベントにおいて販売した。また、今後、農業水産課が実施する地産地消に関する講座に参加した方に配付を行っていく予定です。写真にございますのがエコバッグです。

キ PR用のぼり旗の作成になります。

みなと春まつりが中止となったため、その予算の一部を流用し、直売所やイベント時に使用し、藤沢産農水産物をP

RするためのPR用のぼり旗を作成しました。

ク地産地消マスクの作成になります。

皆様の机にも配布させていただきましたが、みなと春まつりが中止となったため、その予算の一部を流用し、地産地消に関するロゴマークを入れたマスクを作成し、藤沢産サンセットマルシェ等において、藤沢産農水産物のPRチラシとあわせて配布し、地産地消及び藤沢産農水産物のPRを行いました。

今回皆様にも配布させていただきましたので、ぜひご活用ください。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業です。

みなと春まつりが新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

3 予算を伴わない事業について

藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化

藤沢産利用推進店の充実です。

藤沢産利用推進店登録店舗数の増加及び藤沢産利用推進店における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、新たに市のホームページ等において、藤沢産農水産物等の入手先情報を発信し、生産者と既存の藤沢産利用推進店や新規の藤沢産利用推進店に登録してもらえるよう飲食店等とのマッチングを図る予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、農業者への説明する機会が作れず、今年度も継続して取組を進めていきます。

(2) 藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化です。

学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用です。

ア 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用です。

(ア) 現行モデル校との調整です

既存モデル校3校及び新規モデル校1校の計4校と3学期終了後、振り返り会議等で意見交換を行い、令和2年度の課題や令和3年度の事業計画について、情報共有を図りました。

(イ) モデル園の選定及び実施内容の検討です。

保育園におけるモデル園を新たに選定するため、令和2年度は、試行的に俣野保育園にて11月9日から一週間分の給食において、藤沢産新米「はるみ」を20kg使用しました。また、今年度から俣野保育園をモデル園に設定するため、関係課と調整を行っています。

イ 藤沢産農水産物等の使用状況及び生産者との交流状況の調査です。

藤沢産農水産物等の学校及び保育園給食への供給強化を図ることを目的とし、小学校全校及び保育園全園を対象にアンケート調査を実施し、直接契約による藤沢産農水産物の使用状況や納品方法及び地産地消に関する授業等の生産者との交流状況の調査を行いました。

8ページになります。

3) 地産地消の普及啓発・健康施策との連携強化です。

ア 健康寿命日本一をめざす取組との連携です。

健康増進課が健康施策として実施する「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト～」と連携し、SNS等により、旬の農水産物等の情報を発信してもらい地産地消のPRにつながりました。

「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト」において実施するイベントで地産地消のPRを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催方法の変更があり、ブース出展によるPRは中止としました。

また、「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」におい

て、健康増進課と連携を図り、健康づくりのための野菜摂取や藤沢産農水産物のPRを実施しました。

写真がその様子です。

続いて、イ、ウは市等との関係団体が実施したイベントや地産地消講座になりますがほとんど、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっております。

次ページはコロナ禍の中で新たに実施された地産地消に関する事業になります。

9月から12月までの間で、地産地消の推進を図るため、藤沢産農水産物販売の実証実験を実施しました。実証実験が大変好評であったため、農業者及び漁業者が協議会を設立し、2月から「藤沢産サンセットマルシェ」として本格的に実施しています。現在水曜日と金曜日に11時から14時まで実施しています。

(2) 学校給食において藤沢産和牛を使用した給食の提供についてです。

新型コロナウイルス感染症で影響を受けた県内畜産業を支援する神奈川県の実証実験として、藤沢産の湘南和牛をはじめとする神奈川県産和牛肉等が神奈川県から無償提供され、市立小中学校及び白浜養護学校の給食で提供がされました。実施方法がa, b, c, dで写真が提供されたものです。次ページは(3) 藤沢産利用推進店による市役所本庁舎での弁当等の販売についてです。

コロナ禍における緊急事態宣言や時短営業等により藤沢産利用推進店を含む飲食店が厳しい状況下にあるため、藤沢産利用推進店から市役所庁舎で弁当等の販売を行いたいと2月下旬に相談があり、その後、藤沢産利用推進店テイクアウト部会連絡協議会を設立し、3月15日(月)から「コロナ禍における藤沢産利用推進店への支援」「弁当等販売を通じて、藤沢産農水産物のPRを行い、地産地消の推進を図る」ことを目的に藤沢産農水産物等を使用した弁当の販売を開始しました。期間は4月30日までです。

続いて、令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書についてです。

資料2-1です。

収入の部、支出の部とあり、項目、予算額、決算額、差引増減、内訳となっております。

収入の部は3項目あり、合計額で予算額1,600,010円、決算額1,710,408円、差引増減110,398円です

支出の部は大きく2つに分かれており、イベント事業費、普及啓発費ですが、合計額で予算額1,600,010円、決算額1,607,082円、差引増減7,072円です。

差引決算額103,326円は翌年度へ繰越します。

資料2-2は2-1の決算内訳となります。照らし合わせてご確認ください。

資料2-3について4月13日に山田監事に監査していただきましたので、監査報告お願いいたします。

山田監事

<監査報告>

令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算について、決算書及び帳簿、通帳など関係書類を厳正に監査したところ、その内容はすべて適正に処理されていることを認めます。

北会長

ありがとうございました。新型コロナウイルス対策をしながら事業を進めていったところだと思います。

時間もおしていますので、質問なければ先にすすめたいと思います。何かございますか。

林委員どうぞ

林委員

資料1のP3(イ)の試食宣伝販売について。QRコードへのアクセス状況への分析。シールを貼った2000箱のトマトを売って、125件のアクセスがあった。このトマトがいくつ売れたかがわからない。2000枚に対してのアクセスということか。

事務局 (安部川) QRコードシールを2000枚貼付したトマトの箱を販売して、125名の方がアクセスしたということになります。

林委員 マネキン販売の代わりにQRコード。QRのリンク先のサイトがマネキンさんがやってくれた情報提供に当たるので、「おいしいですよ」「こういう食べ方ができますよ」という声掛けの代わりになるものだと思うが、実際のサイトを見に行ったらそうした情報ではなく、トマトの基礎情報みたいなのが載っていた。藤沢産トマトのおいしさ、どうやって食べるとおいしい、みたいなのをに入れてくれたらよかったのにと思った。藤沢のトマトはこういう風に食べるといいですよ、というような。ビジュアルで差し込むのは大事だと思うので、次回があればぜひやってほしい。

また、売れた数に対するアクセス数のデータもとるべきだったと思う。消費者が何を知りたいかで、周知する内容も変わると思う。

北会長 ありがとうございます。事務局の方ご意見を参考にさせていただければと思います。
続いて、議題2令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)について事務局から説明お願いいたします。

事務局 (福岡) 議題(2)令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)についてです。

資料3「令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画(案)」をご覧ください。

この事業内容については、前回の実行委員会で部会ごとに話し合いをしていただき、さまざまなご意見をいただきましたので、いただいたご意見を踏まえ、事業計画(案)及び収支予算(案)を作成しております。

はじめに「1の事業概要」になりますが、昨年と同様に、以前から継続してきた藤沢産農水産物の旬のおいしさ、魅力を市民に

伝え、市内流通の促進、藤沢産農水産物の知識・理解を深め地産地消の推進を図り、事業としては、計画の重点的に取り組む施策の3つを中心に実施することといたします。

次に、「2 地産地消実行委員会の予算を伴う事業について」説明をいたします。

(1) イベントへの参画・実施のアとして、地産地消イベント事業になります。こちらは、農業・畜産業・水産業が一体となって開催するイベントになります。計画にも位置づけがされておりますので、今年度も3月に片瀬漁港を使用して実施してまいりたいと考えております。

事業の概要の後に、その計画のどの取組に該当がするのか記載をしておりますので、ご確認をいただければと思います。

2ページをご覧ください。

「イのふじさわ元気バザール等 地産地消イベント事業」になります。

こちらは、2018年6月から毎月第2土曜日に藤沢駅北口さんパレットにおいて、「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」をふじさわ元気バザール実行委員会が開催しております。この野菜市につきましては、今年度はすべて実施しております。この事業と連携して、地産地消推進事業実行委員会として農産物のPRを行うものです。

具体的には、10月に新米「はるみ」を11月に藤沢の花をプレゼントするとともに、チラシやリーフレットを配布して、藤沢産農水産物のPRをしたいと考えております。

3ページをご覧ください。

ウ 花育体験イベント事業です。

子どもを対象に花の寄せ植え体験を実施し、寄せ植え体験と生産者との交流を通じて、藤沢の花きに対する知識や理解を深めてもらうことにより地産地消の推進を図るもの

です。

(2) 藤沢産農水産物の普及啓発です。

ア PR用ミニのぼり旗等の作成です

藤沢産農水産物の需要拡大及び旬の農水産物のPRのため、量販店等において「藤沢産」のミニのぼり旗を設置するものです。状況に応じてポップなども作成します。

イ 「藤沢産」ロゴマークシール（QRコード付）の作成です。

現在、無償配布を行っている「藤沢産」ロゴマークシールの周りにリニューアルを行う「おいしい藤沢産（仮称）」ホームページのQRコードを載せ、それを読み取った消費者に対して藤沢産農水産物に関する情報を発信することで地産地消の普及啓発を図ります。

次に「ウ 藤沢産利用推進店PR用「食べ歩きマップ」の作成になります。こちらについては、今年度も作成してまいりたいと考えております。

エ ふりふりバター体験事業です。

市内小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図る。

オ 市役所本庁舎等における花きのPRです。

市役所本庁舎等において、季節の藤沢産花きを展示し、コロナ禍の影響を受けている花きのPRを行うものです。

カ PR用動画の作成

藤沢産農水産物を紹介するPR動画作成し、藤沢産農水産物への理解を深めてもらい、地産地消の推進を図るものです。

次に、「3 地産地消実行員会の予算を伴わない事業について」になります。こちらは、3つの重点的に取り組む施策ごとに分けて記載をしております。

はじめに、「(1)藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化」の「イ 藤沢産利用推進店の充実」になりますが、藤沢産利用推進

店登録店舗数の増加及び藤沢産利用推進店における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、新に市のホームページ等を活用して、藤沢産農水産物等の入手先情報を発信し、生産者と既存の藤沢産利用推進店や新規の藤沢産利用推進店に登録してもらえるよう飲食店等とのマッチングを図るものでございます。

次に、藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化です。

ア 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用で保育園における藤沢産農水産物等の利用促進を図るため、昨年度試行的に新米給食を実施した俣野保育園を新たにモデル園に設定し、新米と大豆を使用したふじさわランチを実施するものです。

イ 藤沢産農水産物等の使用状況及び生産者との交流状況の調査

市内小学校における直接契約による農水産物の使用状況の調査と市内小学校及び保育園における地産地消に関する授業等の交流状況を調査するものです。

次に「(3)地産地消の普及啓発・健康施策との連携強化」の「ア 健康寿命日本一をめざす取組との連携」になります。これは、健康づくり課が健康施策として実施する「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト」と連携し、地産地消のPRを実施するものです。この歩くプロジェクトは、いくつかのウォーキングコースを紹介するもので、その中で、農水産物の直売所や利用推進店などを紹介してもらい、藤沢産農水産物等のPRを図ってまいりたいと考えております。

「イ」と「ウ」につきましては、市等の関係団体が実施するイベントと講座になります。既に中止となっている事業もあります。こちらが、事業計画案になります。

次に「資料4-1 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書(案)」をご覧ください。

収入の部になります。

合計が、本年度 1,765,136 円前年度 1,600,010 円増減 165,

126 円です。
支出の部です。
合計が、本年度 1,765,136 円前年度 1,600,010 円増減 165,126 円収入の部と同額です。

次に「資料4-2」をご覧ください。こちらは、詳細な内訳と一番右側の欄にこの取り組みが計画のどの項目に該当するのか記載しておりますので、ご確認いただければと思います。

予備費ですが

なお、予定していた事業が中止となった場合は、マスクなどのグッズ作成費用に充てさせていただきたいと思っておりますので、そこについてもご意見があればお伺いできればと思います。

議題(2)令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)についての説明は以上となります。よろしく願いいたします。

北会長 ありがとうございます。何か質問等ありますでしょうか。
中山委員どうぞ。

中山委員 みなと春祭り。2年間開催できなかつた中、今年はやりたい。去年とどういう風に関催方法を変えるのかが見えない。予算はだいぶ削っているようだが、具体的な方向転換するべきでは。例えば開催時期、感染症拡大も収束しているかもしれないが、わからない。ここに書いてあるのは、ふれあい、飲食ブースなどがあるが、そういうものではなくて、新しい形の開催方法にならないか。これまでもアイデアを出して、弁当販売するだとかをしている。たとえば春祭りも展示と販売にするとか。先ほど地産ラーメンの話をしていたが、藤沢宿交流会が、「謹製藤沢宿御弁当」を作っている。ああいうものを作るといいのでは。あれは福祉団体の光友会が作っていて、地産地消の食材を集めている。地産地消協議会のメンバーがそれぞれ食材を集めて作る弁当だとか。方向転換がいるのでは。

北会長 ありがとうございます。方向転換の必要性ですが、新

型コロナの動きを見ながら、転換ということで、少し時間を見ながら、なるべくタイミングよく、早めに転換できればということ。よろしいか。

中山委員 結構です。

北会長 その他特によろしいでしょうか。
それでは、議題の1と2、合わせてご承認いただけますでしょうか。

(賛成多数)

承認されましたので、資料の(案)を削除してください。

6. その他
なし

以上を持ちまして本日の議題はすべて終了しました。ありがとうございました。進行を事務局へお返しします。

事務局 (安部川) 最後に、中山部長からあいさついたします。

中山部長 本日は雨の中、お足元が悪い中ご参加いただき、また大変お忙しいところ参加いただきありがとうございました。また、忌憚のない意見をいただきありがとうございました。今年度は4期の計画の最終年度です。6月議会でもご質問いただき答弁したが、地産地消推進協議会でいただいた、藤沢市の農水産業を支える皆様から頂いた、ウィズコロナ、アフターコロナを意識した新たなアイデアや意見、それらを踏まえた5期計画を作りたい。7月16日までと期間が短く申し訳ありませんが、忌憚のないご意見をいただきたい。ウィズコロナ・アフターコロナの時代にこんなことができるのではというような意見をもらい、できるかどうかは協議会で議論しつつ、計画を策定していきたいと思っています。また次回は8月下旬。よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

事務局
(安部川)

それでは、以上をもちまして令和3年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を閉会といたします。本日は、長時間に渡りありがとうございました。

また、次の協議会の予定ですが、8月下旬を予会しております。詳細な日程が決定しましたら通知をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日、事務局でご用意させていただきました藤沢市地産地消推進計画、右上に会議用のテプラが貼ってあるものにつきましては、返却となりますので、机の上にそのまま置いておいていただきますようお願いいたします。